

二〇一六年七月二六日(万博公園参加者二三名)

万緑のまつたゞ中に心字池	菜々
四阿の四囲より通ふ蓮の風	菜々
心字池へと影落とす百日紅	菜々
広き園めぐる限りの蝉時雨	菜々
太陽の塔万緑を抽んでし	ぼんこ
築山の要をなせる百日紅	ぼんこ
小流れの楽の涼しき州浜かな	ぼんこ
蓮広葉雨水溜めて揺らぎけり	ぼんこ
梅雨の園長靴履いて吟行す	かかし
梅雨雲に届きさうなる観覧車	かかし
雨の玉風の意に沿ふ蓮広葉	かかし
鳩の子の潜りし母にと見かう見	せいじ
あめんぼの水面を駈けて上機嫌	せいじ
雨音の遠のきてより蝉時雨	満天
水亭の大玻璃を打つ緑雨かな	満天

水鏡して開きたる蓮大輪 よし子

緑濃き雨の築山戻り梅雨 よし子

蓮大輪雨に打たれて散りにけり わかば

堰落つる水辺最も紅葉濃し わかば

右左脳天からも蝉時雨 なおこ

水に透き万華鏡めく鯉涼し ひかり

二〇一六年七月二六日(万博公園参加者二三名)

吟行句会みのる選